

ANFURD 東京電力福島第一原子力発電所 ALPS 処理水の処分にに関するウェビナー(2022年1月18日開催)における吉田先生の回答

No	質問	回答(吉田浩子 日本保健物理学会、東北大学)
1	吉田先生:大江さん資料 P22 にあるように韓国・中国・台湾の原発から多量のトリチウムが放出されていますが、この点を韓国等の国民や専門家はどのように考えているのでしょうか？	韓国の放射線防護の専門家の方々はもちろん認識していますが、韓国の国民のすべての方が、現状を認識し理解されているわけではないと思います。日本でもすべての一般の方が事故前の放出の状況を良く認識し理解しているわけではないのと同じだと思います。
2	台湾の専門家が情報不足と言っていることは、台湾が IAEA にアクセスできないことが影響している可能性は無いかな？	2020年6月29日に行ったシンポジウムでの話ですので、あくまでその時点での台湾の専門家のコメントということになります。その後の状況については、またあらためての機会に伺いたいと思います。
3	被ばくは上乗せ、加算、累積、蓄積という基本的なことを踏まえ、自然放射線があるからみたいな話をしていると、行政のみならず専門家の信頼はますます低下する一方ではないでしょうか？	おっしゃるとおりだと思います。自然放射線や医療被ばくなど別の被ばくを例に取って、「だから、この被ばくはトリビアである」という説明の仕方は事故初期に良く行われていました。相手によっては、論点のすり替えとして、話し手の信頼を失うことにもつながったと思います。しかしながら、被ばく線量の説明は基本的なことを説明すれば良いのか、理解されるのかということ、そういうものでもないと思います。
4	市民科学の方が「ロシア、中国、アラブ首長国連邦が放出を決断した場合。反対することも止めることもできない」と言っているようですが、F1 処理水程度のトリチウム水の放出をすでにロシア、中国等も含め、多くの国が行っていることを市民科学の方は認識していないのでしょうか？もし認識した上でこのようなことを言っているのであれば、市民“科学”の“科学”は似非“科学”で、大衆を扇動しようとしているとしか思えない。	市民科学の団体(Safecast が代表的なグループですが)については、そのデータの信頼性に疑いをもつ専門家もいましたし、彼らがやっているのは空間線量の測定で、その影響についての説明はしない(福島事故で人々の懸念はそこにあるのにも関わらず)ことに私自身疑問を感じ、リーダーの Azby Brown に問いかけたことがあります。線量の測定のみという回答しか得られませんでした。彼らのやっていることが、本来の科学やリスコミのあるべき姿からはずれているところがあるにしても、すでにかれらの活動は少なくともヨーロッパでは市民権を得ており、“市民科学は壺から出てきた魔法遣いジニーであり、ジニーを壺の中に押し込むことは、もはやできない。”状況になっています。処理水の海洋放出は国際的な議論になっています。我々も彼ら市民科学の活動を無視することはできない状況であると思います。